

# 知って備える 防災メモ

第9回



## 竜巻に注意

近年、竜巻による被害が多発しています。竜巻は、発生すると大きな被害をもたらす可能性があり、いつどこで発生するか予測が困難な気象現象です。

## ●竜巻とは

積乱雲の下で地上から雲へと細長く延びる、渦巻き状で高速な上昇気流です。規模が小さく寿命が短い反面、猛烈な風を伴うという特徴を持っています。

年間の竜巻発生件数はあまり多くありませんが、暴風によって森林や建物などに甚大な被害をもたらすことがありますので、十分注意しましょう。

## ●竜巻注意情報が発表されたら

- 空の変化に注意しましょう。
- 真つ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- ヒヤッとした冷たい風が吹きます

・大粒の雨や『ひょう』が降りだす  
これらの事項が該当したら竜巻が発生する恐れがあります。直ちに、頑丈な建物に避難するなど身を守る行動を取りましょう。



## ぼうさい西いぶり 情報メールをご活用ください

市内の災害発生情報をお知らせします。避難の呼び掛けなども行いますので、災害から身を守るためぜひご登録ください。配信を希望する方はbou sai@ml.nishi-iburi.jpに空メールを送信してください。



問い合わせ  
総務グループ  
(☎05) 1130

人が輝き まちがときめく



## みんなで協力して子育てを

# 仲間たち

Group

## 子育てサークル『ピーターパン』

子育てサークル『ピーターパン』は、幼稚園に入る前の子どもを持つ母親が集まり、親子で一緒に遊ぶサークルです。現在15組の親子が参加し、第1・第3金曜日に美園児童センターをはじめ、さまざまな場所で活動しています。

活動内容は、メンバーがそれぞれ案を持ち寄り、話し合いで決めていきます。ことは公園遊び、ピザや納豆作りのほか、ひな飾りやこいのぼり制作、スイカ割りなど季節を感じられる行事も行いました。

リーダーの高橋亜紀子さんは「みんな子育て中のお母さんなので、楽しいことも悩んでいることも共感できます。子どもたちだけではなく、お母さん同士



▲この日は流しそうめんをしました

もすぐ友達になれますよ」とサークルの魅力について話してくれました。高橋さん自身も市外から引越して来て、サークルに参加したことで交友が広がったそうです。

昨年7月から活動に参加している福嶋有希子さんは「みんなで協力して子どもを見ていられるので、ゆったりした気持ちで参加できます。会う度に他の子どもも成長しているのですね。子どもは参加しにくくなります。子どもは参加した当初少し人見知りをしていましたが、今ではすっかり慣れて子ども同士で楽しく遊んでいます」と笑顔で話してくれました。

見学を希望する方は、高橋さん(☎090-1598316054)まで。

## 驚別で楽しんだ釣りが 魚拓作りの原点

「自分で釣った魚を、いつまでも思い出して残すことができるのが魚拓の魅力ですね。子どもからお年寄りまで、誰にでもできますよ」と笑顔で話す黒澤友義さん。黒澤さんの魚拓作りは、小学1年生のときに始めた釣りがきっかけでした。

「海や川、山、当時は沼もあつた驚別で、幼いころから自然に囲まれて遊んでいました。小学3年生のころには、友達の父親の漁船に乗せてもらい、沖でよくカレイを釣っていました。いつしか釣りが趣味となり、大きな魚が釣れると、次第に人に自慢したいという気持ち湧いてきました」と、黒澤さんは振り返ります。

38歳のときに本格的に魚拓作りを始めた黒澤さんは、その年の北海道魚拓コンクールから3年連続の金賞受賞が刺激となり、試行錯誤しながら魚拓作りに没頭します。

「魚拓作品は魚の目で決まります。優しい顔つきになるか、りりしい顔つきになるか、納得のいく目を入れることができるようになるまで10年掛かりました。今でも魚拓作りで緊張する場面です」



▲ 8月、市民活動センターで開かれた黒澤さんの魚拓展

## 自分の魚拓作りの腕 をもっと磨きたい

日本独特の文化を知ってほしいとの思いから、市内の小学校やテニスパーク、市民活動センターなどで魚拓作りを教えたり、実演したりしている黒澤さん。

「皆さん楽しみながら魚拓作りを体験し、完成品を見て喜んでくれるのが印象的です。間接法と呼ばれる方法の魚拓作りは、慣れてくるに従い、色鮮やかで今にも泳ぎ出しそうな魚拓に仕上がるので、初めての方にもおすすめです。これから、魚拓の魅力を多くの方に伝えることはもちろん、自分の魚拓作りの腕をさらに磨き、奥深い魚拓の世界を極めたいですね」と黒澤さんは、50年を経た今も創作意欲を燃やしています。



KIRARI

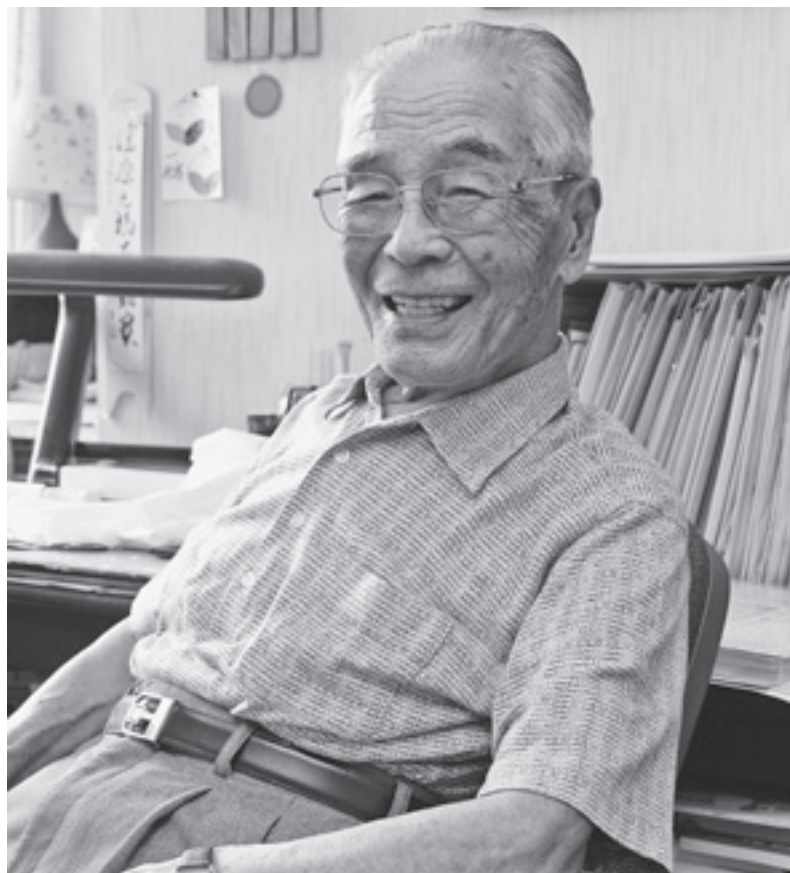
## くろ さわ とも よし 黒澤友義さん(驚別町)

市内の魚拓愛好者を中心に活動を続けている登別魚拓同好会の会長・黒澤友義さんが、本格的に魚拓作りを始めてから今年で50年の節目を迎えました。

この間、北海道魚拓コンクールで3年連続となる金賞を受賞したり、北海道魚拓展の審査員を務めたりするなど、道内の魚拓愛好者の中心的存在として活躍するほか、魚拓の魅力をより多くの方に伝えようと、市民向けの教室や講座の講師も積極的に務めています。

50年にわたり、意欲的に創作活動に取り組んできた黒澤さんに、魚拓作りの魅力や思いを聞きました。

## もっと多くの方に美しい魚拓の魅力を伝えたい



大正14年、登別市生まれ。88歳。室蘭市内の企業を退職後、驚別町で釣具店を開く。現在、登別魚拓同好会会長や北海道魚拓研究連合会名誉顧問などを務める。明治初期、登別の開拓に当たった仙台藩白石城主片倉家の家臣・黒澤家の第13代当主でもある。